

昭和三年度卒業論文題目

(印選科生)

哲 學 科

○哲學專攻

ライブニッツの實體に就いて	大西 輝光	メーン・ド・ビランに於ける推論	澤瀉 久敬
カント哲學に於ける思惟我と自己認識	小方 宣彦	ソフィステース篇に於ける非有の問題	
プラトン哲學に於ける偽思斷の問題	長尾 雄治	フイヒテに於ける理論的と實踐的實踐的時間に就いて	米澤 千足
カント先驗演繹論	栗谷 嘉一	シェリングに於ける「惡」に就いて	田中 忠雄
スピノーザの哲學に於けるテレオロギー	山根 重顯	フイヒテに於ける自由	谷山 隆夫
アリストテレス形而上學に於ける本質の概念	後藤 孝弟	反省判斷方の對象界	植村 芳男
カントに於ける自由概念の一考察	三島 泰治	人間學の一つの試み	山本 榮喜
カント哲學に於ける偶然の概念と實踐的領域	井村 恒郎	現實存在の構造に就いて	眞下 信一
		判斷に於ける Negation について	每田 周一
		近世論理學に於ける否定判斷論特に Windelband, Reinach 兩氏の所論を中心として	天野 博治
		ヘルグソンに於ける粹純持續と悟性	小島 功一

に就いて

プラトンのイデヤに就いて

○西洋哲學史專攻

自然科學的認識の意義

カント認識論における物自體の概念

について

自覺に於ける數學認識

カント先驗的感性論の發生史的考察

カントの自由論について

デイルタイの生の理解

先驗的演繹論理と一つの問題

カントの先驗的演繹論について

ベルグソンの形而上學

○印度哲學史專攻

初期佛敎に於ける禪に就いて

賴耶緣起論の原流

○支那哲學史專攻

平山 高次

杉 正俊

小笠原和夫

鷺尾 順義

梶田 哲治

高橋 道生

高畑 謙一

竹内 正夫

都留 正雄

町澤 直治

酒井 壤

島 靈雄

橘 專岳

中庸研究

大學篇攷

○心理學專攻

原始人の思考作用について

感情論理に就いて

新生兒意識の問題

ゼームス・ラング説に就いて

本能活動の心理學的性質に就いて

想像論

○倫理學專攻

シエエラアの人格概念に於ける神の

現象學

『ヤーウエの啓示する愛』(基督敎倫

理序説としての舊約倫理の一管見)

唯物史觀とカント倫理學

シエーラア倫理學に於ける價值特に

道德的價值について

濱 薫明

村上 德美

伊吹山太郎

安宅 孝治

渡邊 勉

田寺 篤雄

玉置 修

瀬高 德榮

龍野健次郎

松井 守

室田 泰一

湯淺南海男

カントの自叙説

長 小次郎

に就いて

長坂 堯雄

○教育學教授法專攻

Schwanengesang に現れたる Pestalozzi の教育思想について

大屋 助郎

關係

草間 修二

女子教育論序説

中村幸三郎

○社會學專攻

笠島角次郎

ペスタロツチの宗教教育に就て

宇崎 重二

社會連帶思想の研究

松村 榮一

環境と教育

久米 宗一

階級とは何ぞや

佐山 敏生

デューキーの教育説に就て

廣部 重雄

關係の持つ意義（形式社會學に對する一の批判的研究）

自見 唯二

ゾオルフリンの藝術様式に就て

上田 勉

リツプスに於ける社會構成の原理に就て

加川 治武

○美學美術史專攻

如何にして藝術學は「學」として可能であるか―特に藝術學の對象と方法―

外山卯三郎

法然親鸞より見たる念佛往生の意義

菅原 賢仁

カントに於ける美の領域とその諸相

淺野 信次

○佛敎學專攻

菅原 賢仁

シユライエルマツヘル宗教の本質

堀部 春晃

原始佛敎に於ける「行」に就て

菅原 賢仁

體驗の二様態と宗教意識の二様態

渡邊 泰三

○宗教學專攻

菅原 賢仁

ルウドルフ・オットーの聖なるもの

渡邊 泰三